

第14回環日本海拠点都市会議

日 時 平成20年8月27日（水）

10：30～17：00

場 所 米子コンベンションセンター 国際会議室

それでは、基調講演に移らせていただきます。

本日は、鳥取県知事、平井伸治様に「環日本海都市間交流の今後の展望」と題して御講演いただきます。

まず、平井伸治様のプロフィールを御紹介いたします。

昭和59年3月、東京大学法学部を卒業後、同年4月に自治省に入省。自治省ではさまざまな要職を歴任され、平成11年4月からは2年間、鳥取県総務部長、平成13年6月からは約4年間、鳥取県副知事を務められました。平成19年2月に総務省を退職。同年4月に鳥取県知事選挙に初当選され、現在に至っておられます。

それでは、平井知事様、よろしく願いいたします。（拍手）

○平井鳥取県知事 皆様、本当にきょうはこうして環日本海の拠点都市の会議にお集まりをいただきましたことを心から敬意を表し、また発言の機会をいただきましたことを感謝を申し上げたいと思います。尊敬する各地域の市長の皆様、それから各地域を代表する市の代表団の皆様、鳥取県米子市へようこそいらっしゃいました。鳥取県民を代表いたしまして、心から皆様を歓迎を申し上げたいと思います。また、本日のこの会議に当たりまして、地元米子市の野坂市長様初め、米子市の皆様には大変な御苦勞をいただいておりますことを心より敬意を表し、感謝申し上げたいと思います。

先ほどごあいさつなさいました地元の野坂米子市長は、もともとの御出身は外交官でいらっしゃいまして、外務省の御出身でいらっしゃいます。ですから中国に御赴任されたこともありますし、韓国とも親しく意を通じていらっしゃいました。今はその御経験を生かして国際交流も含めて地元で活躍されているわけであります。御参考までに野坂市長のお名前でありますけども、私ども日本国の総理大臣と同じ康夫という名前でございまして、そういう意味で野坂康夫、福田康夫、お二人ともよろしく願い申し上げたいと思う次第であります。

また、本日は日本各地から、とりわけ日本海と同じ海を囲む仲間の市長さん初め、関係者の方々にもおいでいただいております。感謝を申し上げ、歓迎を申し上げたいと思いま

す。

本日は、きょう午後に皆様で環境問題、あるいはさまざまな交流についてお話し合いをされると伺っております。私たちは同じ海を囲んだ地域であるわけでありませうけれども、実は同じファミリーの中、家族の中にあるのではないかと思えることが幾つもあるわけでありませう。例えば、きょう実は鳥取県民にとりまして大切な日でありませう。何かと申しますと、地元、ここ鳥取の特産品はナシでありませう。ペ、リでございませう、このナシが私たちの特産でありませう。特にウグイス色、黄緑色をしました二十世紀ナシというナシをつくっております。よくほかの方々から言われるんですけども、21世紀になってもなぜ二十世紀ナシをつくるのかとおっしゃいませうが、これは品種の名前でございませう、私たちはこれを信じてやっております。もちろん新しいナシもつくっているわけでありませう。この二十世紀ナシがきょう初出荷の日でございませう、大阪初め全国へナシが送られる、その最初の日でありませう。

日本にも秋がやってきました。実り多き秋がやってまいりました。この秋を表現する言葉を皆様考えていただきたいと思ひませう。日本でも実は「天高く馬肥ゆる秋」といひませう。空がどこまでも高く、そして馬が丸々と太ってくる、元気になる、そういう季節だといひませう。この「天高く馬肥ゆる」といふ表現は中国でも、また韓国でも使われている言葉なんです。私たち同じように秋を称賛するわけです。同じ文化、同じ言葉を共有していることをいま一度思い知らされる気がしませう。例えば孔子の言葉、これは我々もよくなじんでいる言葉です。中国の聖人である孔子の言葉は韓国の方も、また我々も学校で習うわけでありませう。その中にありませう「友、遠方より来るあり。また楽しからずや」、友達が遠いところからやってきた、本当にうれしいことですね、これが東アジアの共通言語なんです。私たちはきょうここに、また1年ぶりに集うこととなりました。お互いに顔を知り、交流をし合った仲間同士が日本海という共通の海をまたいで集ひませう。その喜びは東アジア共通の言葉である言葉で表現されるわけでありませう。この関係を私たちは使ひない手はない、また、その歴史ももう一度考え直さなければならぬ、それが今日ではないかと思ひませうわけでありませう。

きょうはスライドを用意してありませう。次をお願いしませう。

これは、実は国際交流についての取り組みの状況を示してありませう。ちょっと見にくくて、日本語で恐縮なんですけれども、一番上にありませう青いもの、それから赤いもの、オレンジ、そして緑とこう書いてあると思ひませう。この青、それからこの3つのもの。この棒グ

ラフは実は日本が各国と国際交流をしている数であります。着実にこれ、伸びております。今まで圧倒的に交流先が多かったのが、これは実は第二次世界大戦の後、急にふえたんですけれども、これはアメリカです。アメリカが一番多いんですけども、このアメリカの青、ございますね。その次に多いのが紫、これが実は日本と中国との交流の数であります。そして韓国との交流の数。またこれがロシアとの交流の数です。環日本海拠点都市地域の国々との状況も示しているわけです。そこで注目されますのは、これを足してみますと、実は今から10年ほど前には339でありました。足し算してもこれより少なかったんですね、アメリカより少なかった。しかし、これは2006年ベースでありますけれども、このベースでいきますと、これを3つ足し算しますと478になります。それは437のアメリカをはるかに超えるようになりました。ですからこの10年間でこの環日本海地域でのお互いの交流というのは日本でトップの圏域になってきた、それがデータで示されているわけです。次をお願いしたいと思います。

これは、環日本海拠点都市地域の皆様、きょうオブザーバーでお越しになった皆様の都市もプロット、点で表現をさせていただきました。それぞれに、これちょっと日本語で書いてあって恐縮でありますけれども、いろんな地域と交流をしているわけでありまして。例えば琿春市でありましたら、このメンバーであります境港市とか、あるいは東草市とかと交流をしているわけがございます。そういうように各地域がそれぞれ拠点都市地域同士の交流もございまして、またこの環日本海をまたいだ交流もあるわけです。地元米子でいえば、米子は江原道の東草市だとか、あるいは保定市という中国のまち、それから合併が関係しまして、さらにもう一つ交流先もふえているというのが米子市の状況でありますけれども、鳥取県でいえば江原道とか沿海地方、また吉林省との交流などをさせていただいているということでございます。次をお願いします。

今のように交流がだんだんと深化をしてくれておりますが、ちょっとここで鳥取県へせっかくお越しになりましたので、若干御紹介を申し上げようと思います。

これが大山という山でございます。見ていただきますと、海外からお越しの方はちょっと富士山に見えるかなと思います。特にこちらの角度ですね、米子市だとか西側の方から見ますと、伯耆富士というんですが、まさに富士山と同じような形をしております。ただ、見る方角によって違います。このように紅葉の季節、鍵掛峠という方から見ますとこんなふうに見えたり、また北側から見るとアルプスのように見えたり、一番上の写真は、隣の村のチューリップ畑などを背景に撮らせていただきました。この大山という山、こ

れが西日本のこのかいわいでは最も大きな山の一つになっています。高さは1,709メートルでございます。実は、平成12年ですから2000年の10月に、ここ米子市を初めとした地域は地震があったんです。その地震のときに、この大山、2メートルほど縮みまして、本当は1,711メートルあったんですが1,709メートルになったんですね。そうしましたら、きょう江原道、韓国からお見えの皆さんも多いですが、江原道の山、雪岳山が1,708メートルです。だからちょっと地震で縮みましたら大体雪岳山と同じ高さになりまして、そんな大山という山があります。次をお願いします。

左の方、これは鳥取の、日本で最も有名な地形でございます、鳥取砂丘という砂丘でございます。きょうはオブザーバーで竹内市長が参加をしています。朝方になりますと、このように風紋がきれいにできます。幅16キロ、それから南北に2キロの大きな大きな、雄大な砂丘でございます。それから同じ日本海の海岸線、東の方に行きますと、こうした浦富海岸という景勝地がございます。千貫松島とも言うところがございます、松が浮いておりますけども、浦富海岸、このかいわいは日本の国立公園に、大山と同じように指定をされています。この国立公園がこの鳥取砂丘のあたりからずっと東側の方に延びていまして、京都の方まで延びてます。東西75キロにわたる海岸線であります。現在、特に中国で多く登録されてるんですが世界ジオパークというユネスコの関係の登録制度、世界的な地質公園が認定されてますけども、その世界ジオパークの認定を目指してやっております。皆様にもぜひ御理解と御支援を賜りたいと思います。次をお願いします。

そして、鳥取県を代表するものはやはり温泉でございます。鳥取県はこのように温泉が、大きなものだけで10を数える温泉地があります。この温泉地があるんですけども、活火山がないんですね。ですからそれがすごく地質的にはおもしろいことなんだそうあります。この温泉それぞれに特徴があります。次をお願いします。

一つ御紹介申し上げなければなりませんのは、ここ地元の米子にあります皆生温泉という温泉でございます。この皆生温泉、皆生きる温泉というふうに書いてあるわけでありまして、1900年に、今から100年前に漁師さんが海の中で発見をしたわけですね。ですからこれは大変たくさんのミネラル、塩、海の水のミネラルがたくさん含まれていまして、お肌にいいと言われております。きょうは会場を拝見しますと女性は美しい方ばかりいらっしゃいますけども、美しい女性はますますきれいになる温泉であります。ですからぜひ試していただきたいと思うんですが、最近はさらに新しいキャンペーンも始めてまして、3%スリミングステイというんですが、3%やせますという、そういうキャンペーン

もやっています。それはどういうことかと申しますと、まず入りますと体脂肪を計測していただきまして、帰るころにはそれが減っているということです。温泉には3度ほどでも入っていただくか、食べ物はちょっと控え目であるけどおいしいものを食べてもらって、海でカヤックをやったり、それから歩いていただいて、ウォーキングを山でやっていただいたり、あるいはお寺で座禅というものを体験していただいたり、そんなことをやっていただいて、やせていただくじゃないかと、そんな取り組みもやっています。次をお願いします。

これは三朝温泉という温泉でありまして、このかいわいで一番古い温泉の一つであります。この三朝温泉の特徴はラジウムを含んでいる温泉で、世界有数の含有量であります。このラジウムは体の悪いものをちょっとずつ壊すっていう作用があります。ですからこの三朝温泉のある周りは、がん、がんになる人の確率が低い、そういう医学的なデータもありまして、健康にいいところです。

こういうように鳥取県には10を数える温泉地があります。ですから皆様にはきょうから10泊ほどしていただきまして、温泉を全部めぐり歩いていただきますと、ようやく鳥取県が見て回れると、こういうことでございますので、ぜひこの機会を活用していただきたいと思っております。次をお願いします。

これは三朝の温泉の近くにあります三徳山という山であります。こうした仏像もございしますが、特に特徴がありますのは、このお堂でございます。これは、ちょっとわかりにくいんですが大きな山の中腹に洞穴がありまして、ここに建っております。1,000年ほど前に建てられたことが、この木材を調べてみた結果でわかってきました。木には年輪がありますので、その年輪を調べますといつごろのものかというのがわかります。これは投入堂と言われていて、投げ入れてつくったお堂だと。昔、高名な仙人といいますが、修行をされている方がおられまして、役の行者というお名前の方なんです、その役の行者が投げ入れてこれをつくったと伝えられています。今でもどうしてこのお堂がここに建てられているのか、どうやってつくったのか、本当に謎だと言われておりますし、これは国宝、ナショナルトレジャーに指定をされています。今、世界遺産への登録を目指した運動もなされています。次をお願いします。

これは県内のゴルフ場で、12のゴルフコースがあります。この米子かいわいにもこれだけ多くのゴルフ場が大山の方でございます。さらに東の方に行きますと中部だとか、あるいは鳥取市のかいわいにもゴルフ場が数多く立地をいたしております。次をお願いします。

す。

最近海外からもゴルフを楽しみに来られるお客さんが出てくださるようになりました。このグリーンパーク大山ゴルフ倶楽部、先ほどごらんいただいた大山がきれいに見えるゴルフ場でありますけども、この4月にはSBS韓国プロゴルフツアーの会場になりました。韓国のゴルフツアーの皮切りになったわけでございます。そして今、ここだけでなく、倉吉の方のゴルフ場などにも来ていただいて温泉を楽しんで帰る、そういうツアーも大分利用されるようになってきております。次をお願いします。

大山のスキー場です。これは先ほどごらんいただいた大山のふもとにありますゲレンデでございます、西日本でも最大規模のスキー場でございます。スキーヤーですとか、あるいはスノーボーダーで大変ににぎわうところでございます。次をお願いします。

さらに、この県の西部にはとっとり花回廊というフラワーパークがあります。このフラワーパークは夜になりますと、このようにイルミネーションがとまりまして、夜もきれいな夜景を楽しむことができます。フラワートレインと呼ばれるバスも園内を遊覧して歩くきれいなところがあります。ここはチューリップがきれいだというので、オランダのキューケンホフの公園とも姉妹提携をしています。

このように風光明媚で自然の魅力もある鳥取県でございますが、産業の活力もあります。次をお願いします。

多くの電気、電子関連産業が立地をいたしております。この米子市でございますシャープ、それから三洋が鳥取県の東部、鳥取市にあります。同じ鳥取市にエプソンがございます。こうした企業さんで液晶関連の製品や、あるいは家電製品、電子製品をつくっています。次をお願いします。

特徴のある産業もありまして、これは日本セラミックという会社でございますが、赤外線だとか、そうしたセンサーをつくっています。これのシェアでいきますと世界ナンバーワンのシェアの会社でございます、今は非常に小さなものをつくる技術を研究する研究所を建設しているところでもあります。次をお願いします。

さらに、鳥取県の西部を中心としまして食品関連の産業も多く立地しています。農林水産業が盛んなんですが、その中の一つでこうしたカニなんかの取れ高、これが境港市が全国でも指折りのところでもあります。東の方にもそうしたカニの揚がる港がございます。こういうものを生かしてさまざまな製品をつくったりしますし、健康食品、ローヤルゼリーだとかを売ったり、そういう産業も立地をしています。これは地元の八幡さんですね。次

をお願いします。

キチン・キトサンと言われる物質があるんですが、これはカニの甲羅だとか、あるいは魚の骨などを原料としましてつくられます。これは健康素材にもなりますし、例えば家畜がけがをしたときに、それを治すための薬剤としても用いられたりいたしております。さまざまな物に、こうした鳥取で活用されている技術があります。次、をお願いします。

先ほど御紹介した二十世紀ナシ、それからズワイガニを初めベニズワイガニなどのカニ、これは冬には鍋になりましたり、それから今の季節はイワガキと言われる大きなカキ、オイスターがとれます。このように四季の食材に恵まれた鳥取県でございます。「食のみやこ鳥取県」として私ども全国、そして世界の皆様にも楽しんでいただいております。ナシは現在、中国だとか、あるいは台湾にも輸出をいたしております。また、スイカとかはロシアに輸出をしたり、そんなこともなされていまして、安心で安全、おいしいものが鳥取から世界へと出ていくようになりました。次をお願いします。

国際交流にこれから話を転じさせていただきたいと思えます。国際交流でございますけれども、これは歴史があるわけですね、ずっとひもといていきます、さかのぼっていきます。冒頭申し上げましたように、私たちはいろんな言葉だとか文化だとか、さまざまな思想だとか、そういうものを共有しているわけです。これは我々の共通の財産になっているんですけれども、それにはやっぱり理由があるわけですね。中国4,000年の歴史があると言われ、その文化の影響は朝鮮半島にも伝えられ、また私たち日本列島もその文化圏の中にあっただけでございます。悠久の歴史の中で私たちは実は手をつないできたわけです。最近ずっと歴史の中では対立を招いた時期もありましたし、相互の理解が余り進まない事柄が生じることもありました。しかし、長く歴史をたどってみれば、私たちは同じような言葉を使い、文字を使い、技術も共有をしている。例えば書道を楽しむ、これはここの集まった韓国、中国、日本共通の文化と言っていいものであります。こういうものがどこでもたらされたか、それは祖先が作り上げたものだと言って過言ではないだろうと思うんです。

私たちはいろんな遺跡をこの近所に持っています。実は鳥取県を含めたこの山陰の地域、そして福井県だとか、そうした日本海側のところまでいろんな伝説があります、また歴史があります。妻木晩田というこの土地がございまして、ここに、ごらんいただきますと高い倉庫があります。これはもちろん復元したものなんですけど、いにしえのものを再度つくらせていただいております。また、かつての住居ですね、こういうもの、これがあつた

時代、その時代をもう一度考えようと思います。日本ではこの時代は弥生時代と言われていました。今から2,000年さかのぼるわけでございます、2,000年前。このころ、この弥生の時代に妻木晩田遺跡という、この鳥取県米子市、それから隣の大山町にまたがる広大な敷地に集落がありました。いわばここに小さな国があったんです。この小さな国というもの、これは152ヘクタールもありました。どこをどうしてここにこうした文化が生じたのか、それは恐らく海の向こうから来たわけです。それを示す証拠がいろいろと出土をしています。今まだ10%かそこらしか発掘が進んでおりませんが、この土地には古代の記憶があります。それは明らかに海を越えた大陸と結ばれた記憶であります。

おもしろい神話もあるんです。今、皆さんがおられる米子市はちょうどこのあたりです。ここは特徴的な地形でありまして、砂でできた細長い地形です。私たちはこれを弓ヶ浜とか弓浜半島と呼んでおります。その向こうには島根半島がございます。この山のように見えるのは、実はここに小さな境水道というチャンネル、海峡がございます、その海峡を挟んで島根半島があるんですね。この地方に伝わる神話があります。それは大山という先ほどご紹介いただいた山がありまして、その大山に綱をつなぎまして、綱を引っ張って、そして陸を引き寄せたという神話なんです。そのときに引き寄せた陸がここに見える島根半島、そしてこの弓ヶ浜、弓浜半島がそのときの綱だった、こういう伝説なんです。その伝説で伝えられているこの引き寄せた、これは唐の国、朝鮮の方から、海の向こうから引っ張り寄せて、ここに土地をつくったんだという伝説があります。

それから、妻木晩田遺跡の隣には孝霊山という山があります。この孝霊山は親孝行という字を当てるんですけども、しかし恐らくは、人によって、説としては高麗、朝鮮ともちろん関係がある、そういう地名ではないかと言われます。そして大山と、その孝霊山とがかつて背比べをしたと。孝霊山は朝鮮半島からやってきて、背比べをして大山よりも低かったんですけどもここにとどまると、こういう伝説があります。こういうように昔の話、伝えられる話からしても、この日本海という共通の海を挟んだ向こう側とのつながり、私たちは覚えているんです、伝説として記憶の中に伝えられている。次をお願いします。

これは別の遺跡から出ました。鳥取市の青谷というところがございます青谷上寺地遺跡という遺跡から出たものです。これも2,000年前の弥生時代のものでございます。ここはちょうど湿地、湿ったところでありまして、封じ込められるように土地があったものですから、当時のものが木の製品でもかなりきれいな形で出土をしています。ここで御注

目いただきたいのは、こういう鉄製の製品、鉄器ですね。この技術は恐らく大陸からもたらされたものではないか。私たち日本人はよく知っているわけではありますが、この時代、日本には貨幣はありません、お金はありません。しかし出土したのものには、このように貨幣がある。中国との関係を今に伝えているわけでもあります。当時どんなドラマがあったか、今では知る由もないわけでもありますけれども、しかし私たちはこういうものの中に朝鮮半島、そして中国大陸との関係をもう一度確認することができます。これはどういうものか私たちにはわかりません、今では謎になりました。ひょっとするときょうお集まりの海に向こうから来られた中国や韓国の方にはわかるのかもしれませんが。もしかするとこれは琴ではないかと私たちは思っております、楽器ではないか。そういうものが出たりしておりますが、この青谷上寺地遺跡のすごいのは、人間の脳がそのままの形で出てまいりました。この弥生人の脳の中に古代の記憶、朝鮮半島、中国との交流の記憶が隠されているはずで

す。

鳥取県の中にもこんなものが出ました。次をお願いします。

鳥取県の中に出たもの、これを見てあっと思われる方おられると思います。この左側は、これは佐波理匙と言われてる出土品であります。スプーンですね。しかしこれは日本の伝統的なさじとは違います。このさじは韓国でいうスッカラと同じものだと思います。以前、この倉吉というところから出たんですが、倉吉に韓国からお客様がお見えになりました。例えば当時ソウル市長さんだった高建市長さんなんかもお見えになりまして、このさじを見て、これは間違いなく韓国のものですねと言って帰られました。そのように、これは実は7世紀のもので、当時もそうした影響、やはり日本の中に確かにあったんだらうと思います。

それから、これは同じ鳥取県の中に出たものでありますが、この遺跡の形状からして、これは韓国で今も暖房として使っておられるオンドルが日本でもあったことを示している遺跡であります。そういうようにオンドルと同じものが日本の鳥取県で住居の中で使われていた、こういうことも我々の遺跡からは出ているわけでもあります。

私たちは、いろんないきさつもあって、時に私たちの同じ文化を持っていること、こうして古代からつながっていたことを忘れがちでありますけれども、実は同じ家の中、屋根の中で育ってきた仲間同士であると思います。それが分かれて中国に行き、そして韓国に、日本に、それぞれの文化や富を花開かさせている、それが今日の姿であります。ですから言葉も共通のものもあれば、いろいろと理解し合えることも多い。私たちはよく西洋の世

界と出会います。しかし、どうしてもその西洋の世界と違う価値観だなと感じることは多々あるわけですね。しかし同じ東アジア同士であれば、かつて孔子はこういうふうに言ったじゃないとか、「天高く馬肥ゆる秋」と申しましたが、そういう共通の言葉を見つけて私たちは喜びを分かち合うことができます。何か通じ合うものがある、これをこれからの時代、未来に向けて大切にしなければならないと思います。次をお願いします。

これは最近の経済的な趨勢をグラフで示させていただきました。ちょっと日本語で細かい字で書いてありまして大変に恐縮なんですけれども、この緑が世界の貿易の推移であります。どんどんと地球は国際化してきています。いろんなところで経済成長が見られるようになってきました。BRICs（ブラジル、ロシア、インド、中国の頭文字68）という言葉がもてはやされるようになり、この北東アジアの地域でも中国、韓国、ロシア、そして日本という経済的な固まり、パワーが生まれてきているわけであります。

それと期を一にして、同じ歩みで東アジアの中でも貿易だとか経済交流が広がってきています。緑の下に赤い折れ線グラフがあります。そして青い折れ線グラフがあります。この赤い折れ線グラフ、これは東アジアが世界と貿易をしている、その額を示しております。これは非常に大きな速いスピードで伸びています。このグラフの左側から比較しますと、こちら側に至るまで10倍というスケールで伸びています。さらに東アジア圏域間、東アジアの国と国との間ですね、中国と日本、韓国と中国、韓国と日本、こうしたお互いの貿易の額で見てもこのように青が伸びてきております。このベースでいきますと、この一番左側からこちら側まで、ちょっとわかりづらいですが20倍も伸びているわけです。世界全体の貿易額の伸びと比較しますと大変に顕著に伸びてるんですね。

これは、ちょっと下にありますのは、世界貿易の中で占めるパーセンテージ、割合で、シェアで示してみました。赤が東アジアの圏域の割合、東アジア圏と外との世界、東アジア以外、他の国との貿易です、東アジア外。それから東アジア圏域間が青の割合、シェアでございます。お互い、それぞれが伸びてきているわけでありまして、今では大体東アジアの占める世界貿易における地位は、これちょっと古い2005年でありますけど、2005年のベースですら26.4%、そして東アジアの圏域間の割合は13.2%でございます。かつては4%台だったものが13%まで伸びている。かつては14%だった東アジアと外との関係が26.4%までふえている。これが我々の地域の特徴なわけです。

世界としては確かに貿易は伸びてるんですけども、圏域の中でのお互いの国同士の経済的な行き来も、それからこの圏域が成長しているものですから、この圏域と外との貿易も

両方が急速に伸びているというのがこの東アジアの特徴なわけです。このような地域はよそにはないわけですね。ヨーロッパであればヨーロッパ圏内、それからヨーロッパ圏域と外側との貿易が伸びるかどうか。これは東アジアほどには伸びてきていないわけです。ですから、私たちはお互いの地域がお互いに結びつき合うこと、この相互依存性、相互の関係性を深めています、一つには。そして同時に我々の圏域がお互いに結びつき合うことで全体が成長をして、我々の東アジアと外とを結ぶ関係、この関係も強まっている。これが両方同時に起きているというのが東アジアの特徴なんです。

私たちはこうした時代を今、生きているわけでありまして、この中で地域の繁栄を導いていかなければならない、そのために何ができるか、これを真剣に考えなければならぬのだと思います。次をお願いします。

鳥取県の対外交流を示させていただきました。鳥取県自身はここにございますけれども、いろんな地域と交流をしています。このちょっとずつ色が変わっているところが鳥取県との交流先のところでございます。一番最初にこの河北省、中国と交流を始めました。その後、沿海地方と1991年に、それから1991年にやはり吉林省と関係を結びました。それから1994年に江原道と姉妹提携をいたしております。その後、モンゴル中央県とも交流関係を結んでおります。この環日本海の地域では吉林省、そして沿海地方、また江原道と姉妹的な交流をしているというところでもあります。さらに、そこに都市とかの名前が書いてありますのは、県内の市町村が交流をしている状況でございます。このように鳥取県は特に韓国で大変名前が多く上がっておりますのは、韓国との交流が非常に盛んな地域でございまして、交流の数は全国で最も多い地域であります。次をお願いします。

私たちは、これは知事同士といいますか、県とか道、地方同士で交流をしまして、お互い一堂に会して話し合うことがございます。きょうはここに都市の皆さんが勢ぞろいされているわけでありまして、私どもも昨年の10月に境港でサミットと言われます北東アジアの地方政府の会議を持ちました。左側に私がおりますが、その隣が金振銑知事です、江原道の知事さん。それからその隣が吉林省のチェン副省長さん、それから沿海地方のダリキン知事さん。またこれはモンゴル中央県の知事さんですけども、このように環日本海地域で集まりまして、私たちもお互いの話し合いをしました。

そのときにテーマで話し合いましたのは、環境と交流というテーマで話し合いをしました。環境は、きょうも皆さん恐らく議論になると思うんですが、私たちは、この地域は同じ環境問題を共有しています。例えば海を見ていただきたいと思います。これは沿海地方

のダリキン知事が会議の中で強く主張をされて、私たちも合意したんですけども、海洋資源を保存することについて、維持することについて私たちは共同で取り組まなければならないだろう。これはもちろん国の責務もありますが、国に働きかけていこうではないか、こういう話し合いをしました。実はこの日本海は資源が徐々に乏しくなっていると言われている。このままほっておきますと大切な漁獲がなくなってしまうかもしれない。これはそれぞれの地域がお互いのルールを守っていくことで保たれるわけでありまして、こういう問題も考えなければならない、それが一つですね。

また、空も見てください。空を見ますと、私たちですとちょうど春になりますと空が黄色くなることがあります。黄砂と言われる現象です。モンゴルだとか中国の方から砂が巻き上げられまして、これがずっと韓国やロシア、そして日本へとやってきます。この黄砂で言いますと、ちょうどモンゴル中央県というあのあたりから、モンゴルの方から吹き上げられました砂が中国の方を経由しまして、そうして韓国の江原道とかソウルとかを経由して日本の鳥取県の方にもやってきます。それからさらに中国の吉林省の方を経由して、これはロシアの沿海地方の方にも行くわけです。ですから、ここで集まった私たち、全く別の地域のように見えますけども、同じ黄砂という問題を共有しているわけでありまして。交流が若干ちょっと下火になっていて中断しておりましたが、今、この会議の後、江原道と一緒に黄砂の研究を私たちの環境の研究所と一緒にやってやるようになりました。さらに言えば、環境を取り上げた会議をやろうではないか。今度はロシアで集まるんですけども、この秋にもそうした話し合いをしようといたしております。

それから、もう一つ大きなテーマとして話し合われましたのは、こうした東アジアの経済が向上している時代に、私たちはお互いに交流をすることを強化しましょう、促進しましょうということ。空の道、そして海の道、空で海でお互いが結ばれる、そういう時代を一緒に切り開きましょう、こういう約束をお互いにしました。子供たちの交流は未来の相互理解に役立つでしょう。ですからそうしたことも促進していきましょう。文化や芸術、あるいはスポーツに国境はありません。このたびは北京でオリンピックがありました。大成功をともに喜びたいと思います。こうしたスポーツや文化、芸術、これもお互いに交流し合うことで強化をされるし、特に青少年の育成には役立つでしょう、こんな話をしました。皆さんもきょうされるとと思いますが、私たちもコミュニケをつくりまして合意を取り交わしたわけです。次をお願いします。

鳥取県は、特に日本海側の地域どこもそうだと思いますが、北東アジアでのゲートウエ

一、玄関口の役割を果たさなければならないと思っています。この山陰地方はちょうど手のひらを大陸の方に向けて差し伸べるような、そういう地域に当たります。その手のひらに当たるところの山陰地方だからこそ、かつては海を渡って渡来人が来て、その渡来した人たちが先ほど御紹介した妻木晩田遺跡などを開いたわけです。山陰は加茂岩倉遺跡とか、島根県などにも多くの遺跡があるところでもあります。

今、現代でもう一度考えてみると、距離が近いということはメリットになる時代になってきたのではないか。日本でいえば経済的な富が集中しているのは、なぜか太平洋側の方に限られています。東京とか、あるいはトヨタの本拠がある愛知県とか、それから大阪、そうしたところ、こうしたところは私どもは太平洋ベルト地帯と呼ぶわけではありますが、太平洋側に帯状になりまして、これが経済的な集中を今、日本の中で持っています。また韓国でいえば、これはソウル首都圏に大きく経済が集中しているわけです。それから中国も北京や上海、こうしたところに経済的な中心があります。最近では吉林省でも自動車工場だとか多くの経済的な発展も見られるわけでもあります。しかし、やはり経済ということからいくと必ずしも恵まれているのがこの地域であるとは限らない。さらにロシアも広い国です。モスクワを初めとしたヨーロッパロシア、そしてアジアのロシアがあります。特に極東のロシアはモスクワやサンクトペテルブルクから大変遠い位置関係にあります。だから我々は、こういう意味で必ずしも発展の恩恵をこれまでこうむってきたわけではないわけではありますが、見方を変えてみようじゃないかということです。

かつてお互いに文化を共有した時代、2,000年も昔にさかのぼってみれば、近いからこそ繁栄をともに築くことができた。そして日本でいえば山陰地方を初めとしたこの日本海側に、その中心地ともいべきところがあった。福井県にも継体天皇という伝説があるわけではありますが、渡来した方かもしれない、そういう天皇がやってきて日本を治めた、こんな伝説があったりします。日本で北九州地方、九州の北側の地方、これも当時は中心でありました。いずれも考えてみれば大陸に近いから繁栄を遂げることができたわけです。この時代であれば中国、あるいは朝鮮半島との距離感が近いこと、これがメリットだったわけでもあります。

今、世界の経済は変わりました。アメリカやヨーロッパが中心だと思われていたものがひっくり返りました。東アジアがその中心地域であると躍り出たわけでもあります。そうなりますと、この東アジアでのお互いの結びつきを強めるために、アジア大陸の中と日本列島の中で地中海とも呼ぶべき地域がある、この地中海を囲む地域で私たちがお互いに結び

つき合うことで、今、東アジアが経済の中心になっていること、そのメリットを受けるようになれないだろうか、これが我々の構想なわけであります。私はそういう時代がいよいよやってきたのではないかと思います。

例えば、日本のビッグカンパニーであります自動車会社の幹部の皆さんと話をしてみると、日本海側で航路が開かれればロシアの沿海地方を経由してヨーロッパへ荷物を送るようになる。そうすると随分メリットがあるという話を本気でするようになりました。また、ソウルとかそうした韓国側との結びつきを考えても新しい道が開かれる必要があるのではないかということです。鳥取県には米子空港というエアポート、それから境港というシーポートがあります。さらに鳥取港とか、そうした港があるわけです。これを生かして私たちは世界と結びつき合う、特にこの環日本海地域というメリットを受けられるようにならないだろうかと考えています。次をお願いします。

一つは、空の道でありまして、米子ーソウル便がアジアナ航空、韓国の航空会社で運航をされています。ちょうど去年の今ごろ搭乗率が、パッセンジャーが減ってきた。その結果で、この航空路線を閉じようではないかという提案がそのアジアナ航空から来ました。私たちは地域を挙げまして、いやいや、これからは東アジアの時代であると、このゲートウエーを守るために韓国やアジアから来るお客さんをふやしたり、我々から韓国へ出かけていく、そうした動きをやろうじゃないかと。今までこれを1年間かけてやってきました。おかげさまで昨日アジアナ航空からこの路線の存続をお知らせが来まして、私たちは非常に喜んでます。去年と比べますと確かにまだ目標の搭乗率には届いてませんが、62%台ぐらいまで回復をできております。私たちは70%を目指していこう、そんな取り組みをしています。次をお願いします。

さらに日本海側に面していること、これを活用しなければならない。そのためには貨物の問題、船運の問題が大切です。鳥取県の境港からは、これは国際港でありまして、世界に延びています。中国では上海ですとか、あるいは青島などに航路が延びています。それから朝鮮半島には釜山に航路が行っています。釜山に行く航路は、例えば敦賀港に寄ったりとか、いろいろと寄りながら帰ってくるような航路もございます。日本海側がひとしくこうした航路を今、拡張してきているところであります。さらに私たちは新しい航路を今、開こうと計画をしています。次をお願いします。

これはDBSクルーズフェリーという韓国の船会社が計画している航路であります。それは境港から韓国の江原道、東海へ行く航路であります。そして東海からロシア沿海地方

のウラジオストク港に延ばそう、これを毎週回します。韓国と日本との間は週2回、ロシアと韓国の間は週1回、そういう貨物と旅客と両方が乗るような貨客船を就航させようではないか。実はきょうそのパク副社長さんにもお会いをいたしました。パク副社長さんから着々この準備は進んでいると、2月の就航を目指している、そういうお話がありました。

こういう航路ができてきますと、私たち日本海側の拠点都市は日本のほかの都市、それこそ太平洋側の都市からも荷物を持ってきてもらって、これを朝鮮半島、あるいはロシア、さらに中国吉林省へ、そしてヨーロッパへ運ぶルートができ上がってくるわけですね。長いこと夢見てきたこの航路も今ようやくその船影が見えてきたような感じがいたします。鳥取県としては対岸の韓国・江原道の金振統知事と協力しながら、また地元の東海市、境港市と協議をしながらこの航路計画を応援をしていきたいと考えています。

この航路ができますと、山陰地方は大きなメリットが当然あるわけです。それは、この航路を使って外国と結びつき合う。今はもう大体が国際分業です。部品を日本でつくって製品を韓国でつくる、こんなことはもうざらに行われています。そういう中に日本海側の地域が入っていけるチャンスがあるわけでありまして、さらに太平洋側からこちら側の方との物流なんかも呼び起こせるかもしれない。これは山陰地方だけの問題ではないと思います。他の地域でも新しいこうした人の流れ、物の流れができることで、それで環日本海の地域があたかもローマ帝国の時代に地中海を囲んで一つの国があったように結びつきを強め、その中で港町沿岸地域が繁栄する、その時代の扉を開けることになるのではないかと、こういうように期待をしているわけでありまして、次をお願いします。

この航路計画は韓国の李明博大統領にも御説明をいたしました。これはこの春に青瓦台、韓国の大統領官邸を訪ねたときの写真であります。李明博大統領もこのときは非常ににこやかな笑顔でございまして、この前日が韓国での国会議員の選挙があった日です。その国会議員の選挙で与党ハンナラ党が勝ったわけでありまして、その翌朝だったものですから非常に李明博大統領も機嫌がよかったです。最近、牛肉がどうしたとかいろいろと問題もあるようでありまして、この表情がさえないかもしれませんが、このとき李明博大統領と協議をいたしました。

私は、これはもう全く前ぶれなしに今の航路計画の話を上上げたところ、李明博大統領はその場でおっしゃいましたのは、これからは海の道を開かなければならない、これは大変にいい計画だと、ぜひ実現するように検討してみたらいいじゃないですかと、こうい

うように居合わせた江原道の金振銑知事初め韓国側の知事さんにもおっしゃったわけであります。次をお願いします。

これは先ほど御紹介したSBSのコリアンツアーです。このように今、この地域でも環日本海交流の熱が高まってきて、お客さんも来るようになりました。航路とか、あるいは航空路、空の道、海の道を通じて交流が深まらなければならないと思います。次をお願いします。

鳥取県ではさまざまな観光資源がありますが、一つは漫画ですね。お隣の境港市は今、県内で最も観光客が訪れるところになりましたけれども、これは海外でも放映をされています「ゲゲゲの鬼太郎」をモチーフにしたまちになっております。次をお願いします。

さらに漫画としては、アジアはもとよりとして世界で親しまれておりますけれども、「名探偵コナン」のふるさとでもあります。「名探偵コナン」の作者である青山剛昌先生は鳥取県の中部の御出身であります。このような漫画の資源を訪れて観光客もやってくるようになってきております。さらに我々は環日本海地域でこうした輪を広げられないだろうかという話し合いを深めています。次をお願いします。

これは、きょうお集まりのそれぞれの国の山なんです。一つは長白山、そして雲岳山、それから大山。中国、韓国、日本の山であります。実は長白山とそれから大山、これは姉妹山提携、シスターマウンテンの関係を結んでいます。これは2000年にそういう関係を結びました。雲岳山とは先ほど申しましたようにちょうど同じ高さの山であります。例えば山を訪ね歩くヨーロッパやアメリカの人たちがこのアジアに来たときに、こうした地域を回って歩くようなことはできないだろうか。次をお願いします。

例えばクルーズ船なんかも走らせてはどうだろうか。そうしてアジア全体で観光客を呼び込めないかということで、これは江原道の金振銑知事が提唱をし、東アジアの観光地で集まりまして、毎年会議を開くようになりました。ことしはモンゴルでこの会議が開かれたところでもあります。その中でチャーター便をやろうじゃないか、クルーズ船をやろうじゃないか、こうした計画が合意をされたところでもあります。次をお願いします。

環境も大きなこれからのテーマなんです。これは地元米子市の水鳥公園というところでもあります。ここにはコハクチョウを初めとした水鳥が冬場を中心といたしまして数多くやってくるところでございます。この水鳥も冬になるとにぎやかに鳴くわけでありまして、コハクチョウも鳴くわけです。この水鳥、考えてみたら、これはお互い同じ鳥を見てるんです。中国、朝鮮半島、またロシアも含めてこの水鳥たちは渡ってきます。この水鳥公園

のスタッフが調べますと、そういう飛行ルートがあるわけです。鳥にさえ越えられる国境を我々が越えられないわけがない。そしてその水鳥がすめるような環境を一緒につくらなければいけないだろう。鳥取県と島根県はこの地域をラムサール条約の指定湖沼としました。次をお願いします。

環境に敏感なのは子供たちです。これは北東アジアの環境を考える子供たちの交流事業を昨年やったときの写真でございます。子供たちはやはり生きとし生けるもの、生物として生き物として、まだ誕生間もないわけです。ですから環境が自分たちの体や健康に与える影響にとっても敏感に反応するんですね。ですから環境の問題、非常によく直観的に理解するなど国際的な子供たちの会議を見て思いました。次をお願いします。

同じ海を抱えていると、こんなことも起きます。これもやはり青年の集まりなんですけども、これは南ソウル大学と鳥取大学の学生たちであります。何をしているかといいますと、これはごみ拾いです。このごみは日本海を渡って海の向こうからやってきたごみなんです。この海岸線にはハングル表記のごみがたくさん到着をするわけです。こういうのを日本と韓国の青年がともに清掃活動できれいにしようじゃないか、こういうキャラバンをやりまして、福井県の方から鳥取県の方までごみを拾って歩いたわけです。こんなような取り組みがなされています。きょうは皆様がこうした交流事業、また環境について話し合うと聞いております。次をお願いします。

時間も参りましたので、このあたりで話を閉じさせていただきたいと思いますが、こうした国際会議、都市の間の交流がもたらす成果というのは未来に向かって大きな価値を持つと私は思います。今から10年前、あるいは20年前と比べてみていただきたいと思うんです。実は日本で環日本海交流という言葉がいわばやり始めてブームになったのは20年くらいの歴史があります。ただ、最初のころはお互いに経済的な交流が起こると本気では思っていなかったと思うんです。しかし、今では経済的な成長をそれぞれの地域が遂げて、観光客が実際に行き来をするようになってきました。しかも製品の生産段階でも、部品を日本でつくって、それを中国や韓国で組み立てるということがほとんど当たり前のようになってきている、むしろ主流になってきています。こういうことは我々は20年前には想定していなかったんだと思うんです。だから私たちは今、新しい時代のちょうど岬のようところに立って、将来を見通そうとしているんだと思うんです。

私たちの向こう側に広がっているのは共通の海です。この海を渡り鳥も乗り越えられるのに、人間が知恵を結集して越えられないはずはないと思います。航路を実現したいと思

います。航空路をさらに発展させたいと思います。子供たちに夢を与えたいと思います。そしてお互いの交流でお互いの地域を繁栄へと導きたいと思います。

日本海側は、日本では裏日本と呼ばれることがあります。私はおかしいと思います。アジアに向いている方こそ表であって、玄関口であって、表日本でなければならないと思います。今ようやくそのチャンスが私たちの地域にめぐってきたんだと思うんです。きょうのこの都市の会議で実り多い成果を出していただいて、皆様のお力で、リーダーシップで前進させていただきたいと思います。

共通の言葉をもう一つだけ申し上げたいと思います。これは戒めです。日本で言葉だけで言うことを「絵にかいたもち」と言うんですね。これは中国でいう、漢字で書くと「画餅」ということになります。「画」の「もち」ですね、「画餅」。これは韓国でも中国でも同じ言葉を持っておられるはずです。単なる会議ではなくて、きょうの会議が行動に結びつき、実践から発展へと成長することを願いたいと思います。

皆様のますますの御健勝と、お集まりの地域の御繁栄をお祈りを申し上げまして、私からの説明、コメントにかえさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。(拍手)

○司会 御講演ありがとうございました。

平井知事様には、韓国の江原道、中国の吉林省、ロシアの沿海地方などとの交流を精力的に推進しておられる方ならではの視線で環日本海都市間交流の今後を展望していただきました。興味深いお話の数々を非常にわかりやすく御講演いただき、まことにありがとうございました。

皆様、いま一度盛大な拍手をお願いいたします。(拍手)

以上をもちまして、午前の部を終了します。